

II オートプシー・イメージング (Ai) で何がかわるか？—現状と課題

3. 診療放射線技師の Ai におけるさらなる発展を目指して

阿部 一之 純真学園大学保健医療学部放射線技術科学科

2008年に、「Ai 放射線科医はどう関わるか？」のテーマで開催された「第14回つきじ放射線研究会」に、診療放射線技師の立場で出席して、初めてオートプシー・イメージング (Ai) を知った。これを契機に、日本放射線技師会で Ai 活用検討委員会を立ち上げて、診療放射線技師として Ai とどのように取り組むかを議論しながら、全国実態調査を経て「ガイドライン」を策定した。その後、関連団体、学会と共同歩調をとりながら、Ai の普及啓発に邁進してきた。

2010年、厚生労働省で開催された「死因究明に資する死亡時画像診断の活用に関する検討会」の報告書¹⁾が2011年に公開されてから、多くの医学・医療関係者が Ai に着目し、活用するようになってきた。この報告書のおかげで厚生労働省の後援を得て、日本放射線技師会も年3回、Ai 研修会を開催してきた。

これらの経緯を踏まえ、医学・医療の発展に期待される Ai における診療放射線技師像²⁾、診療放射線技師のさらなる発展をめざした Ai 認定診療放射線技師制度の構築に向けて、あるべき姿を考えたい。

日本診療放射線技師会の教育・研修制度への取り組み

2008年10月、社団法人日本放射線技師会(2012年4月、公益社団法人日本診療放射線技師会に移行)に Ai 活用検討委員会を立ち上げ、会員への Ai 実施についての実態調査と講演会の開催、ならびに「Ai における診療放射線技師の役割— X線CT撮像等のガイドライン(院内 Ai 実施編)」を策定した³⁾(表1)。また、日本放射線専門医会・医会 Ai ワーキンググループと共同編集にて、『Autopsy imaging ガイドライン』を発売⁴⁾した。次のステップとして、診療放射線技師の教育・研修を目的にした、『よくわかるオートプシー・イメージング (Ai) 検査マニュアル』を発売した⁵⁾。

日本放射線技師会では2010年度に、下記に示す2回の研修会が開催され、多くの受講者を得て、多くの成果と克服すべき課題を得ることができた。

第1回：札幌医科大学医学部放射線

医学講座主催、オートプシーイメージング学会(以下、Ai学会)、日本放射線技師会共催「[Aiに]従事する医師・診療放射線技師の教育・研修会」

第2回：Ai学会主催、日本医師会、日本放射線技師会共催「平成22年度 Ai 研修会」

Ai学会主催の「平成22年度 Ai 研修会」は、「司法解剖」「Aiにおける医療安全」「病理解剖」「警察医・検視」「Aiに関する看護学」「Aiにおける感染対策」「Aiに関する法令・倫理」「死後画像の特性」「死後画像の撮影の特徴」「救急現場における死後画像」「救急現場における死後画像」「児童虐待における死後画像」「Aiの概念及び現状」のプログラムで2日間行い、理解を深めるために「確認試験」を最終的に行った。

また、2010年には、第26回日本放射線技師会放射線技師総合学術大会(東京、2010年7月3日)市民公開シンポジウムを「死因究明— Aiによる開かれた医療に向けて」のテーマで開催し、Aiに[従事する]診療放射線技師の教育・研修のシステム構築は重要な喫緊の課題であると提起し、本格的に教育・研修制度に取り組んだ。

Ai (死亡時画像診断) 研修・認定制度の構築に向けて

2010年の厚生労働省の報告書では、「死後画像の撮影においては、死後画像の撮影に特化した技術の取得が必要で

表1 「X線CT撮像等のガイドライン」教育・研修システム(抜粋)

Ai 検査を実施するにあたり、診療放射線技師として必要な教育は、まず、通常の診療で求められている画像と、Ai が求めている画像の違いを理解することである。検査技術や画像処理・画像管理技術においても、Ai に特化した部分の理解と技術習得が必要である。さらに、Ai に関する基礎知識や関連分野についても教育されていることが望まれる。死亡後に実施される Ai では、診療放射線技師は高い倫理観を持って Ai 施行に臨まなくてはならない。そのためには個人の取り組みが重要なことはいうまでもないが、各施設においての教育・研修システムも検討されるべきである。